

2023年12月期 決算説明資料

協和キリン株式会社

 **KYOWA KIRIN**

アジェンダ

2021-2025年中期経営計画

～2023年の振り返り・Story for Vision 2030・2024年の計画・2025年財務指標の見直し～

株主還元

コマーシャルアップデート

R&Dアップデート

2023年のニュース

Q&A

代表取締役社長 宮本昌志

取締役専務執行役員 山下武美

常務執行役員 財務経理部長 川口元彦

執行役員 戦略本部 グローバル製品戦略部長 須藤友浩

本資料には、当社（国内外の連結子会社を含む）の見通し、目標、計画など、将来に関する記述が含まれています。これら将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報や予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料は、投資家の皆様に向けて情報を提供することを目的としたものであり、内容には医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2021-2025年中期経営計画 ～2023年の振り返り～

UMNを満たす医薬品の提供

■ グローバル戦略品の価値最大化

- ✓ 北米でのCrysvita自社販売の開始と着実な成長
- ✓ EMEA新体制でのCrysvita、Poteligeoへの集中による成長の加速
- ✓ Crysvitaの更なる浸透

■ 画期的な医薬品の継続的創出

- ✓ rocatinlimabのグローバル開発推進（治験登録者数2,400人超）およびKHK4951のP2試験準備
- ✓ REGULGENT™搭載のバイスペシフィック抗体KK2260の臨床試験開始
- ✓ フォゼベル®の製造販売承認を取得
- ✓ RTA 402、KW-3357PEの開発中止
- ✓ Orchard Therapeutics社との買収契約締結

Life-changingな価値を実現する人材・基盤の強化

■ 人材育成・組織力・デジタル基盤・その他

- ✓ 人材育成・組織力：グローバルキーポジションのサクセッションプランニングの推進、日本の経営職人事制度の改定、企業文化改革「KABEGOE」の継続
- ✓ DE&Iの推進：OKK体制におけるキーポジションの女性比率30%到達、日本での「PRIDE指標」のゴールド認定取得
- ✓ 経済産業省による健康銘柄に2年連続で選定
- ✓ デジタル基盤整備・拡充：Dx人材育成の推進、生成AI社内環境による全社利用開始、ノーコード・ローコードツール（RPA等）による業務効率化・ITリテラシー向上
- ✓ 執行体制の強化に向けたCxO体制の拡充

患者さんを中心においた医療ニーズへの対応

■ ペイシェントアドボカシー

- ✓ XLHのさらなる疾患認知向上、患者交流機会の創出・拡大
- ✓ 世界リンパ腫デーを核とした疾患認知向上キャンペーンや患者団体との連携による活動の実施
- ✓ Rare Disease 月間を核とした疾患啓発活動の拡大
- ✓ 製薬4社による「Healthcare Café」の開催（日本）

■ 医薬品にとどまらない価値の提供

- ✓ Ubie社とXLH/TIOに関する協業
- ✓ XLHに関連した患者ニーズ対応の取り組み検討

社会からの信頼獲得

■ 高品質な医薬品の安定供給

- ✓ 複数の生産拠点からの主要製品供給体制構築の推進
- ✓ 高崎工場 Q-TOWER（品質保証関連複合施設）の本稼働
- ✓ JaCER※1への加入を通じた全ステークホルダーを対象とした人権課題への対応

■ 地球環境の保全への貢献

- ✓ 再生可能エネルギー導入等によりCO₂排出量を対2019年比で54%の削減
- ✓ 米国カリフォルニア州法 議会法案 AB-1305号※2に関する情報を開示
- ✓ ZEB※3 認証を取得した宇部工場 事務所棟を竣工

※1：一般社団法人ビジネスと人権対話救済機構

※2：カリフォルニア州に拠点を置く企業に義務付けられた気候変動に関する情報開示

※3：Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら消費するエネルギーをゼロにすることを目指した建物

FY23 業績サマリー

(単位は億円、単位未満四捨五入)

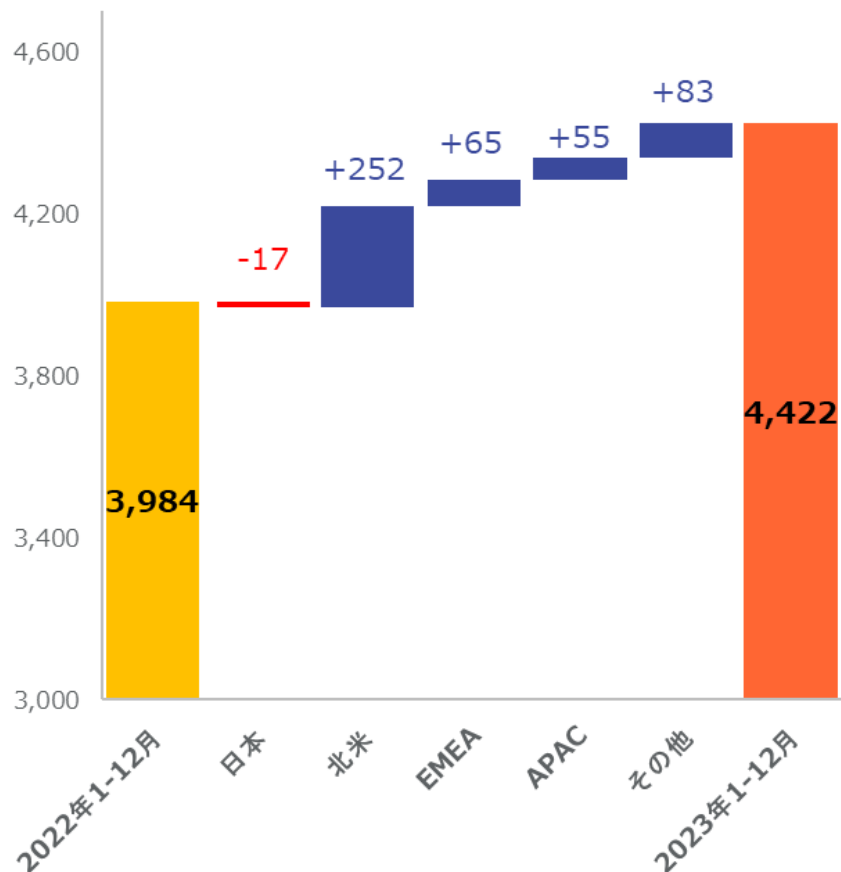
	2022年 実績	2023年 実績	増減	2023年 修正予想	達成率
売上収益 [海外売上比率]	3,984 [61%]	4,422 [65%]	+439 (+11%)	4,260 [64%]	104%
売上総利益 [売上総利益率]	3,115 [78%]	3,310 [75%]	+196 (+6%)	3,260 [77%]	102%
販売費及び一般管理費 [販管費率]	1,662 [42%]	1,631 [37%]	-31 (-2%)	1,620 [38%]	101%
研究開発費 [研究開発費率]	629 [16%]	721 [16%]	+92 (+15%)	790 [19%]	91%
持分法投資損益	43	9	-34 (-78%)	30	31%
コア営業利益 [コア営業利益率]	867 [22%]	968 [22%]	+101 (+12%)	880 [21%]	110%
当期利益	536	812	+276 (+52%)	760→700	116%
ROE	7.1%	10.2%			
配当性向 ¹	38.9%	35.5%			

【為替情報】
 2022年実績 130円/米ドル
 2023年実績 140円/米ドル
 2023年修正予想 130円/米ドル

1 コアEPSに対する配当性向。 ※コアEPS: その他の収益/費用とそれらに係る税金影響を控除した当期利益「コア当期利益」を元に算出したEPS

FY22 vs FY23 ~売上収益~

**売上収益 +439億円
(うち為替 +189億円)**



● 日本 -17億円

ダーブロック・クリスピーター・ロミプレートなどが伸長したものの、毎年の薬価改定影響に加え、競合品の影響を受けたネスプAGなどの減収により、日本リージョンは1%の減収。

● 北米 +252億円 (うち為替+91億円)

Crysvita(+21%)・Poteligeo(+25%)・Nourianz(+27%)がそれぞれ売上を伸ばし、北米リージョンは22%の増収。

● EMEA +65億円 (うち為替+63億円)

エスタブリッシュト医薬品事業のGrünenthal社との合弁化に伴い、8月よりAbstral等13ブランドの売上収益が製品売上から売上ロイヤルティ及びライセンス利用料に移行した減収要因があったが、Crysvita(+14%)・Poteligeo(+36%)がそれぞれ売上を伸ばしたことに加えて、TostranをADVANZ PHARMA社へ£62.5M(115億円)で譲渡したため、EMEAリージョンは10%の増収。

● APAC +55億円 (うち為替+15億円)

中国集中購買制度の影響でGranが減収となったが、Crysvita・Nespなどが売上を伸ばし、APACリージョンは18%の増収。

● その他 +83億円 (うち為替+21億円)

ファセンラ(ベンラリズムブ)売上ロイヤルティの増加により、その他は21%の増収。

FY22 vs FY23 ～日本主要アイテム売上収益～

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2022年 実績	2023年 実績	前年比	増減要因	2023年 予想	達成率
ネスプ+ネスプAG ¹	211	171	-39 (-19%)		166	103%
ネスプ	34	32	-3 (-8%)	薬価改定・ 競合品影響	28	112%
ネスプAG	176	140	-36 (-21%)		138	101%
ダブロック	66	99	+34 (+51%)	市場浸透(2020.8発売)	78	127%
オルケディア	103	106	+3 (+3%)		112	95%
ジーラスタ	311	319	+9(+3%)	2022.12 ボディーポッド発売	335	95%
ポテリジオ	20	19	-0 (-0%)		20	98%
リツキシマブBS	103	90	-12 (-12%)	薬価改定	87	104%
ロミプレート	104	120	+15 (+15%)	市場浸透(2019.6適応拡大)	112	106%
アレロック	60	55	-5 (-8%)	薬価改定	47	117%
ノウリアスト	80	76	-5 (-6%)	競合品影響	75	100%
ハルロピ	40	45	+5 (+12%)	市場浸透(2019.12発売)	47	95%
クリースビータ	89	105	+16 (+18%)	市場浸透(2019.12発売)	111	95%

1. 正式名はダルベポエチンアルファ注シリンジ「KKF」。製造販売元は協和キリンフロンティア株式会社、販売元は協和キリン株式会社。

FY22 vs FY23 ~海外主要アイテム売上収益~

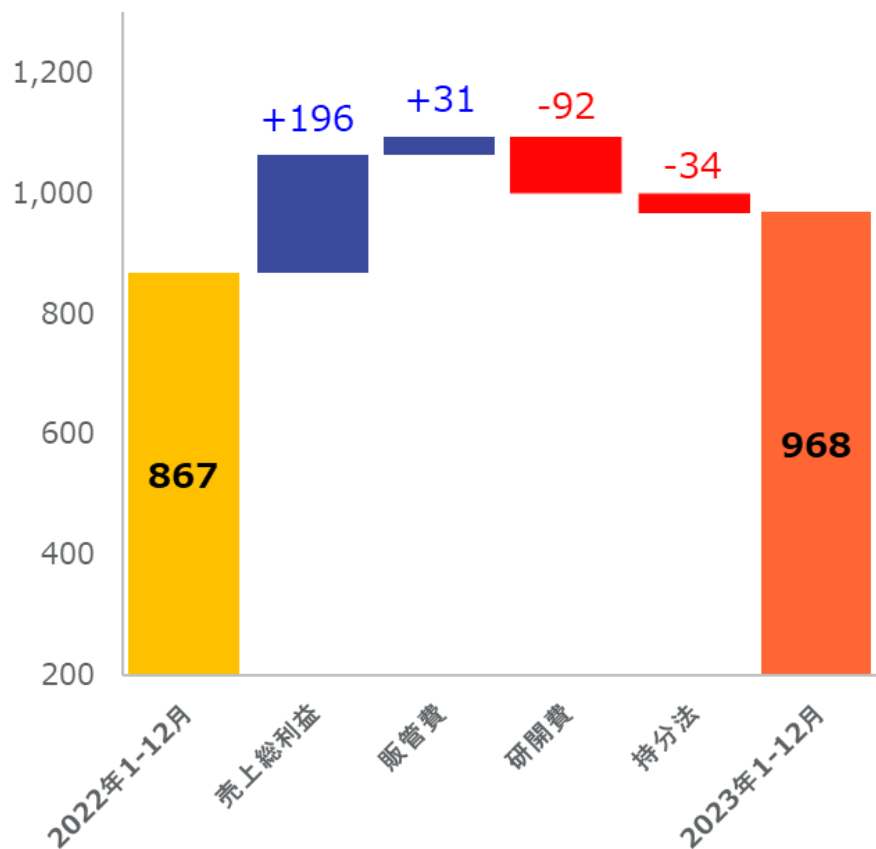
(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2022年実績		2023年実績		前年比	増減要因	2023年	
	実績	実績	実績	実績			予想	達成率
Crysvita	1,182	1,420	+237 (+20%)				1,380	103%
北米	870	1,052	+182 (+21%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国・適応拡大(成人/TIO) [APAC] 上市国拡大				
EMEA	310	351	+42 (+14%)					
APAC	3	16	+13 (457%)					
Poteligeo	223	284	+61 (+27%)				275	103%
北米	172	215	+43 (+25%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国拡大・市場浸透			194	111%
EMEA	51	69	+18 (+36%)				80	87%
APAC	-	0	+0 (-%)				2	7%
Nourianz	65	82	+18 (+27%)		市場浸透		75	109%
Nesp	76	91	+15 (+20%)		市場浸透(韓国、台湾など)		80	114%
Gran	82	69	-13 (-15%)		中国集中購買制度 ¹ 影響		82	84%
Neulasta	56	57	+0 (+1%)				57	100%
技術収入	330	407	+77 (+23%)		ファセンラ伸長 Fotivda ³ 伸長		390	104%
ベンラリズムブ ロイヤルティ ²	216	274	+58 (+27%)					

1. 中国で医療費削減を目的に2018年に導入された医薬品調達プログラム (VBP: Volume-Based Procurement)。入札により2-5社程度の企業だけに供給が委託される一方、価格は大幅に下落する。
2. AstraZeneca社が販売するファセンラの売上ロイヤルティ (当社独自の見積もりを含む)
3. LG Chem傘下の Aveo Oncology Inc にがん領域の開発・販売権をライセンスしている tivozanib (Aveoは北米以外の権利をEUSA Pharmaにサブライセンス)。腎臓がん治療薬 Fotivda として欧米で販売中。

FY22 vs FY23 ~コア営業利益~

**コア営業利益 +101億円
(うち為替 +65億円)**



- **売上総利益 +196億円 (うち為替+165億円)**

売上収益増加(+439億円)に伴い増益。2023年4月27日からの北米でのCrysvita自社販売開始以降の販売ロイヤリティ計上の影響等により売上原価が増加したため、売上総利益率は前年から低下した(78.2%→74.9%)。

- **販売費及び一般管理費 +31億円 (うち為替-82億円)**

自社販売開始に伴う人件費等の増加や為替影響があったものの、北米でのCrysvita自社販売以降のプロフィットシェア費用計上がなくなった影響により減少。

[人件費 -73、販売促進費 +175 (Crysvita北米プロフィットシェア費用 +218) など]

- **研究開発費 -92億円 (うち為替-18億円)**

アトピー性皮膚炎を対象とする第3相国際共同治験を実施中のKHK4083の開発費用が増加。

- **持分法投資損益 -34億円**

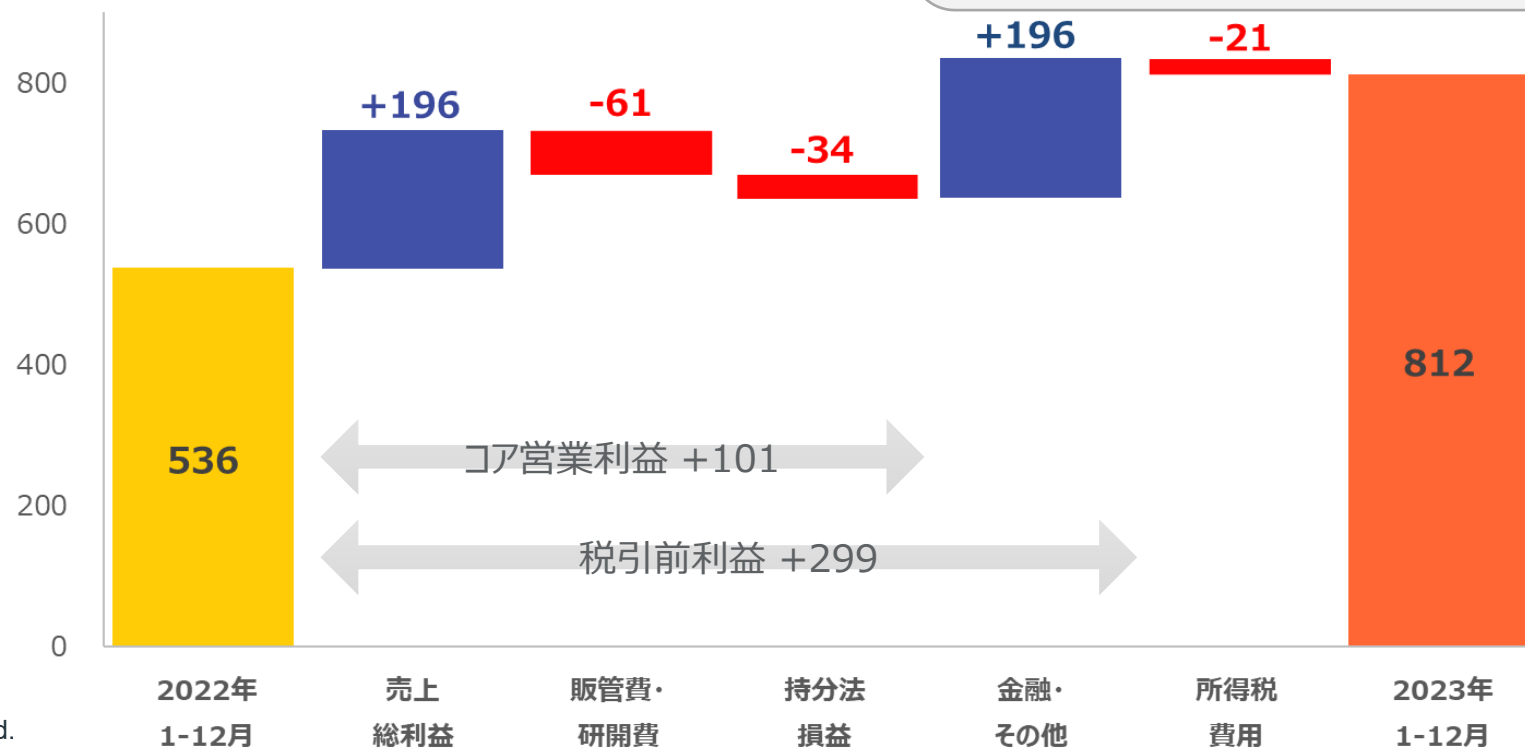
FKBのHulio(FKB327/アダリムマブBS)は引き続き成長した一方で、繰延税金資産を取り崩した影響で前年を下回る。

FKB : 協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社

FY22 vs FY23 ~当期利益~

当期利益(1-12月) +276億円

- 欧州エスタブリッシュト医薬品事業合併化 51%株式売却益 + 49%残存持分評価益 + 148
- 減損損失 +71 FY22: ME-401仕掛研開費 143、ilofotase alfa仕掛研開費 32
FY23: RTA 402仕掛研開費 83、Ardelyx共同研究契約終了 11
- 為替差益 +16 (26 → 42)
- 事業構造改善費用 -39 (-24 → -62)
- 契約損失引当金 -14 FY23: クロージングコスト RTA 402 -20、ME-401 -8



2021-2025年中期経営計画 ～Story for Vision 2030～

2030年に向けたビジョン

2030年に向けたビジョン

協和キリンは、イノベーションへの情熱と多様な個性が輝くチームの力で、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして病気と向き合う人々に笑顔をもたらすLife-changingな価値*の継続的な創出を実現します。

UMNを満たす 医薬品の提供

抗体技術の進化へ挑戦を続けることに加え、多様なモダリティを駆使し協和キリンの強みを生かした創薬により、有効な治療法のない病気の治療に取り組んでいきます。

社会からの信頼獲得

常に信頼され、成長が期待される企業であり続けるため、世界トップクラスの製品品質とオペレーショナルエクセレンスを追求し続けます。

患者さんを中心においた 医療ニーズへの対応

医薬品事業で培った疾患に関する知見と最先端の科学・技術の応用に努め、医薬品にとどまらない社会の医療ニーズに応えていきます。

* 病気と向き合う人々の満たされていない医療ニーズを見出し、その課題を解決するための新たな薬やサービスを創造し、提供することで、患者さんが「生活が劇的に良くなった」と感じ笑顔になること



中計からの環境変化

内部 変化

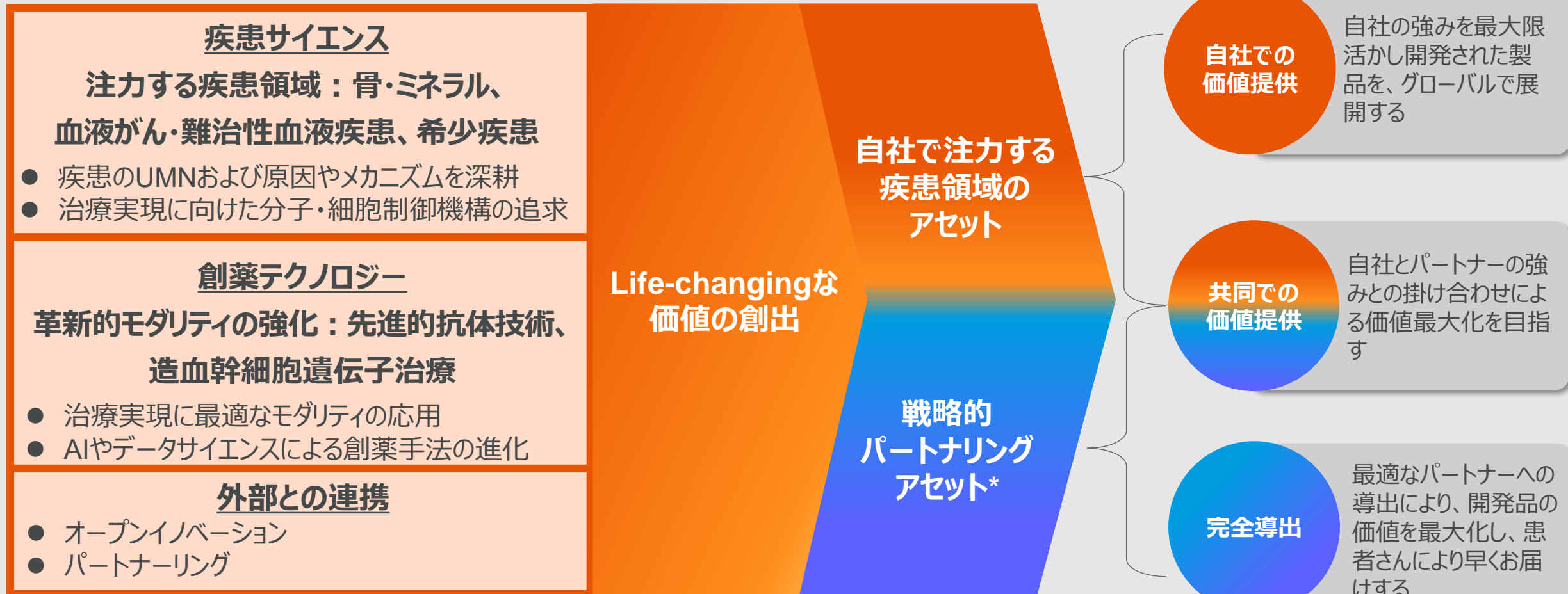
- Crysvita・Poteligeo等オーファンドラッグのグローバル自販体制を確立
- 骨・ミネラル、血液がん・難治性血液疾患、希少疾患が強みのある疾患領域になりつつある
- 遺伝性疾患の根本原因を取り除く可能性のある造血幹細胞遺伝子治療というモダリティを獲得
- rocatinlimabの価値最大化、新規アセット獲得および開発中止などによるポートフォリオの変化
- One Kyowa Kirin体制を通じ、多様なスキルや仕組みを取り込み成長できる組織へ

外部 変化

- 医療費削減に向けた政策・規制強化の世界的な潮流
- 根治や疾患進行抑制を可能とする新たなモダリティの実用化と、根治または進行抑制への要求のさらなる高まり
- モノクローナル抗体や低分子をモダリティとした創薬におけるターゲットの枯渇が進む
- メガファーマ含む製薬業界全体で、医薬ビジネスに集中する・フォーカスする疾患領域を絞るなどの集中戦略をとりつつある

Story for Vision 2030

Life-changingな価値を創出・提供するための戦略



* 注力する疾患領域以外のアセットを戦略的パートナーリングアセットとし、パートナーとの連携で価値最大化を実現する

戦略投資について ~Life-changingな価値の継続的な創出に向けて

ポートフォリオ強化を目的とするライセンスイン、M&A投資

- 注力する疾患領域である、**骨・ミネラル、血液がん・難治性血液疾患、希少疾患**にプライオリティを置く

新たな強みを創造するサイエンス・テクノロジーへの投資

- 新たなモダリティや初期パイプラインの獲得、協業やコラボレーションの加速を目的とした投資
- 情報探索、アクセスを目的としたVC投資・CVC活動

2021-2025年中計キャッシュ・アロケーション*



*2021年2月4日公表の2021-2025年中期経営計画キャッシュ・アロケーション

2021-2025年中期経営計画 ～2024年の計画～

2024年の計画

UMNを満たす医薬品の提供

■ グローバル戦略品の価値最大化

- ✓ Crysvita・Poteligeoのエビデンス活用による患者さんへの浸透促進
- ✓ グローバル戦略品のLCMの強化による更なる価値提供

■ 画期的な医薬品の継続的創出

- ✓ rocatinlimabの対象疾患拡大（喘息・結節性痒疹）
- ✓ KHK4951、KK4277、REGULGENT™搭載のバイスペシフィック抗体KK2260およびKK2269、ADCのKK2845の臨床試験推進
- ✓ OTL-200の米国承認および上市に向けた対応
- ✓ Story for Vision 2030を踏まえた戦略投資先の探索

患者さんを中心においた医療ニーズへの対応

■ 医薬品アクセス向上

- ✓ XLHに関するリアルワールドデータを利用したエビデンス創出
- ✓ XLHの疾患認知度向上に向けたShine a Lightキャンペーンエリア拡大
- ✓ 患者団体と連携したCTCL疾患認知向上キャンペーンの実施

■ 医薬品にとどまらない価値の提供

- ✓ XLHに関連した患者ニーズ対応の取り組み検討の継続
- ✓ キリングループとの協業強化による付加価値創出

Life-changingな価値を実現する人材・基盤の強化

■ 人材育成・組織力・デジタル基盤・その他

- ✓ 人材育成の加速：自律的なキャリア形成と学習支援、人材システムの活用拡大
- ✓ 企業文化改革「KABEGOE」活動の継続
- ✓ デジタル基盤強化：Dx人材育成、IT基盤のエンタープライズアーキテクチャ最適化
- ✓ 執行体制の強化：CxOを核としたリーダーシップの推進

社会からの信頼獲得

■ 高品質な医薬品の安定供給

- ✓ グローバルでの安定供給に向けた取り組み強化
- ✓ 国内外委託製造業者との連携管理強化
- ✓ サステナブル調達活動強化
- ✓ バイオ医薬品原薬製造棟（HB7）建設（2025年3月完了予定）

■ 地球環境の保全への貢献

- ✓ CO₂排出量を対2019年比で51%削減
- ✓ 温室効果ガス スコープ3の削減に向けた取り組み

FY24 業績予想サマリー

(単位は億円、単位未満四捨五入)

	2022年 実績	2023年 実績	2024年 予想	増減	Orchard	Orchard除く 2024年予想
売上収益 [海外売上比率]	3,984 [61%]	4,422 [65%]	4,730 [70%]	+308 (+7%)	45	4,685 [70%]
売上総利益 [売上総利益率]	3,115 [78%]	3,310 [75%]	3,480 [74%]	+170 (+5%)	30	3,450 [74%]
販売費及び一般管理費 [販管費率]	1,662 [42%]	1,631 [37%]	1,660 [35%]	+29 (+2%)	80	1,580 [34%]
研究開発費 [研究開発費率]	629 [16%]	721 [16%]	1,000 [21%]	+279 (+39%)	100	900 [19%]
持分法投資損益	43	9	30	+21 (+218%)	-	30
コア営業利益 [コア営業利益率]	867 [22%]	968 [22%]	850 [18%]	-118 (-12%)	-150	1,000 [21%]
当期利益	536	812	630	-182 (-22%)	-110	740
ROE	7.1%	10.2%	7.6%			
配当性向 ¹	38.9%	35.5%	47.6%			

【為替情報】
 2022年実績 130円/米ドル
 2023年実績 140円/米ドル
 2024年予想 140円/米ドル

1 コアEPSに対する配当性向。 ※コアEPS: その他の収益/費用とそれらに係る税金影響を控除した当期利益「コア当期利益」を元に算出したEPS

FY24 ~日本主要アイテム売上収益予想~

(単位は億円、単位未満四捨五入)

製品名など	2022年 実績	2023年 実績	2024年 予想	前年比	増減要因
ネスプ+ネスプAG ¹	211	171	144	-27 (-16%)	薬価改定・ 競合品影響
ネスプ	34	32	28	-4 (-13%)	
ネスプAG	176	140	117	-23 (-17%)	
ダブロック	66	99	122	+23 (+23%)	市場浸透(2020.8発売)
フォゼベル	-	-	33	+33 (-)	2024.2発売予定
オルケディア	103	106	117	+11 (+10%)	市場浸透
ジーラスタ	311	319	205	-114 (-36%)	競合品影響、新薬創出加算の返還
ポテリジオ	20	19	19	-0 (-1%)	
リツキシマブBS	103	90	79	-11 (-12%)	薬価改定
ロミプレート	104	120	132	+12 (+10%)	市場浸透
ノウリアスト	80	76	71	-4 (-6%)	競合品影響
ハルロピ	40	45	52	+7 (+15%)	市場浸透(2019.12発売)
クリースビータ	89	105	129	+24 (+23%)	市場浸透(2019.12発売)

1. 正式名はダルベポエチンアルファ注シリンジ「KKF」。製造販売元は協和キリンフロンティア株式会社、販売元は協和キリン株式会社。

FY24 ~海外主要アイテム売上収益予想~

(単位は億円、単位未満四捨五入)

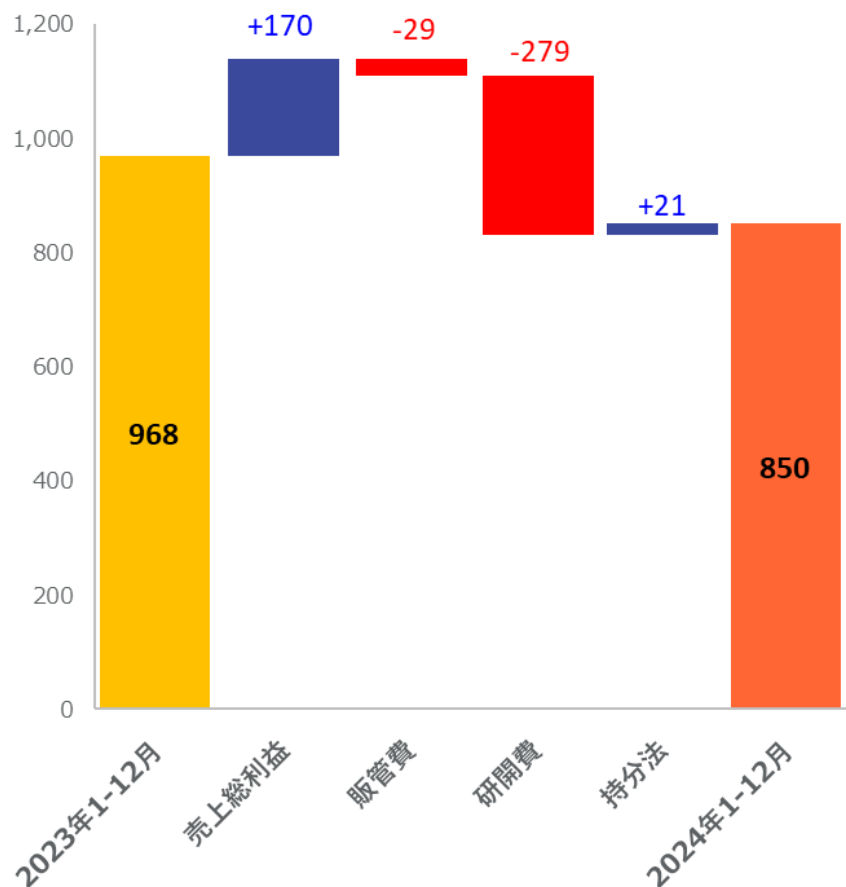
製品名など	2022年 実績	2023年 実績	2024年 予想	前年比	増減要因
Crysvita	1,182	1,420	1,759	+339 (+24%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国・適応拡大(成人/TIO)
北米	870	1,052			
EMEA	310	351			
APAC	3	16			
Poteligeo	223	284	325	+41 (+15%)	[北米] 市場浸透 [EMEA] 上市国拡大・市場浸透
北米	172	215	233	+18 (+8%)	
EMEA	51	69	88	+18 (+26%)	
APAC	-	0	5	+5 (+3,446%)	
Nourianz	65	82	85	+2 (+3%)	
Libmeldy (OTL-200)	-	-	45	+45 (-)	Orchard新規連結、米国上市予定
Nesp	76	91	107	+16 (+18%)	中国市場浸透
Gran	82	69	72	+2 (+3%)	
技術収入	330	407	450	+43 (+11%)	ファセンラ、 Fotivda ² 伸長
ベンラリズムブ ロイヤルティ ¹	216	274			

1 AstraZeneca社が販売するファセンラの売上ロイヤルティ (当社独自の見積もりを含む)

2 LG Chem傘下の Aveo Oncology Inc にかん領域の開発・販売権をライセンスしている tivozanib (Aveoは北米以外の権利をEUSA Pharmaにサブライセンス)。腎臓がん治療薬 Fotivdaとして欧米で販売中。

FY23 vs FY24 ~コア営業利益~

コア営業利益 -118億円



● 売上総利益 +170億円

売上収益増加 (合計+308: 日本-129、北米+277、EMEA+12、APAC+48、その他+98(うち Orchard+45)) により売上総利益が増加するものの、2023年4月27日から始まった北米での Crysvita自販化に伴うスキーム変更(プロフィットシェア費用[販管費]→販売ロイヤリティ[売上原価]) により売上原価が増加するため、売上総利益率は1.5%低下する見込み(74.9%→73.6%)。

● 販売費及び一般管理費 -29億円

2023年4月まで負担していた北米Crysvitaにかかるプロフィットシェア費用がなくなったが、Orchard社の新規連結影響(-80億円)により、増加する見込み。

● 研究開発費 -279億円

KHK4083の第3相ROCKETプログラムの本格化に加え、Orchard社の連結開始により、研究開発費は大幅に増加し、1,000億円水準となる見込み(Orchard社連結影響 -100億円)。研究開発費率は16.3%→21.1%と約5%増加する見込み。

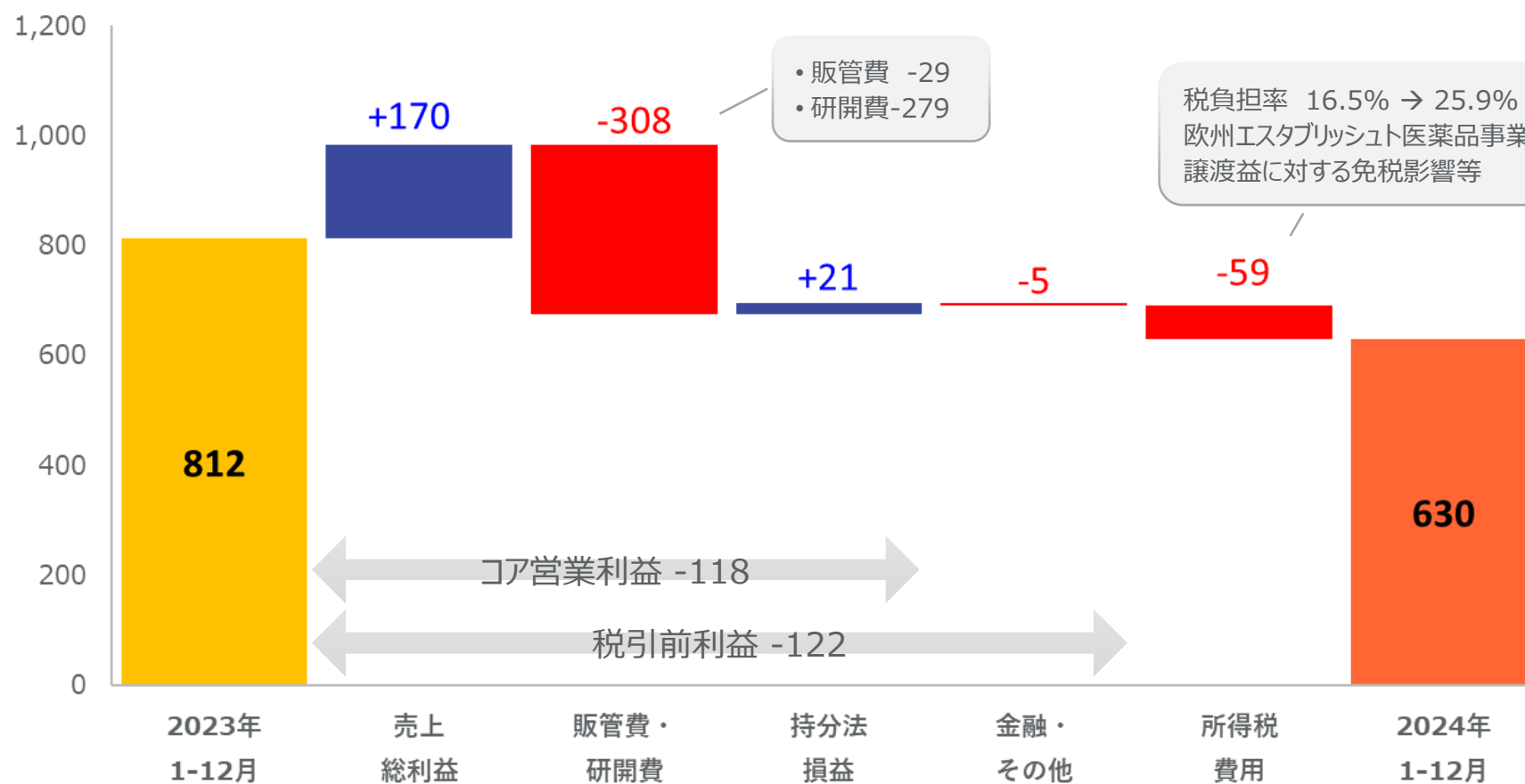
● 持分法投資損益 +21億円

前年のFKBの繰延税金資産の取崩影響がなくなるため、21億円の増益となる見込み。

FKB : 協和キリン富士フィルムバイオロジクス株式会社

FY23 vs FY24 ~当期利益~

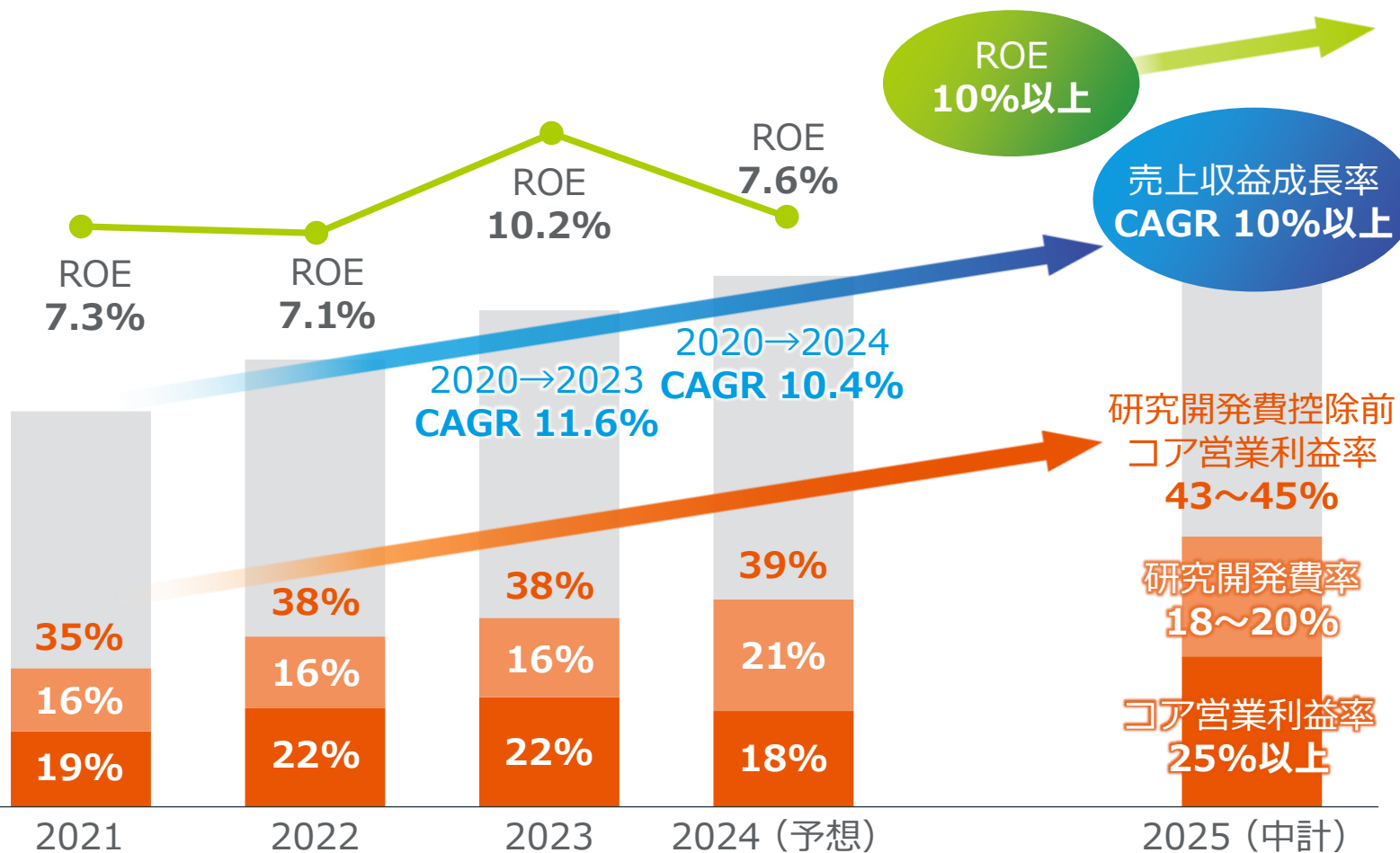
当期利益(1-12月) -182億円



2021-2025年中期経営計画 ～2025年財務指標の見直し～

2021-2025年中期経営計画 2025年財務指標の見直し

- 2023年は過去最高益となり、ROE10%、CAGR10%以上を達成
- 環境変化に対応したビジネスモデルの再構成等により、2025年中計財務KPIの継続的な達成は2026年以降へ



2025年中計財務KPI 達成時期を2026年以降へ

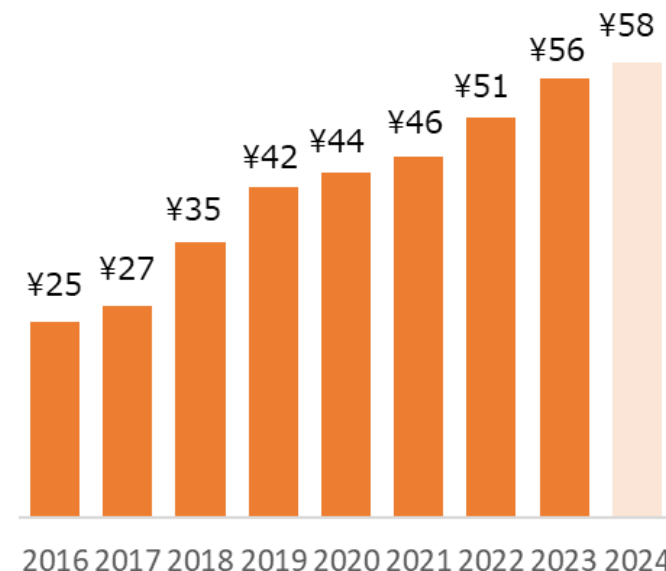
- +**
 - Crysvitaの順調な伸長
 - KHK4083のAmgen社との提携
 - 円安の進行
- - Orchard買収による短期財務インパクト
 - KHK4083の開発投資の拡大
 - 薬価環境の悪化 (日本、欧州、中国)
 - 新製品の未上市 (開発中止、Nourianz欧州不承認)

株主還元

株主還元

- ✓ 2023年度年間配当は**56円**、2024年度年間配当は**58円** (予定)
- ✓ 2017年度以降、**8期にわたる連続増配**を予定
- ✓ 2021-2024年度の加重平均配当性向は**40.8%** (予定)
(中期経営計画における配当性向ガイダンス「40%を目処に継続増配」)

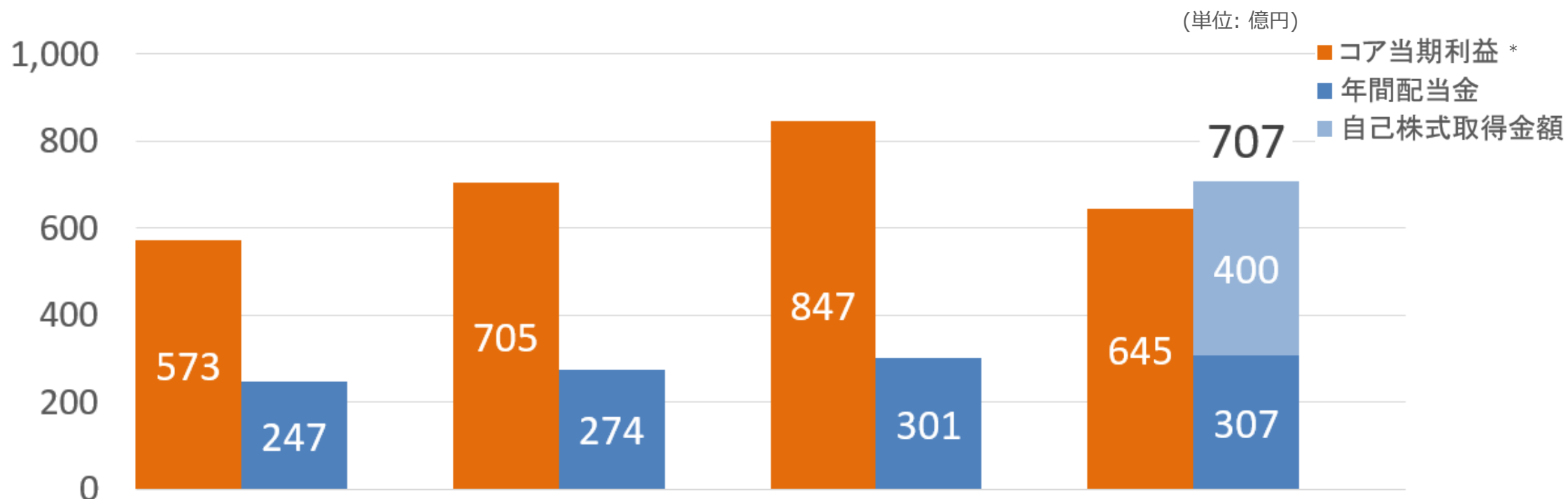
年度	年間配当金 (円/株)			配当性向 ^{*1}	ROE ^{*2}
	中間	期末			
2016	12.50	12.50	25.00	44.9%	5.3%
2017	12.50	14.50	27.00	34.4%	7.2%
2018	15.00	20.00	35.00	35.2%	8.6%
2019 ^{*3}	20.00	22.00	42.00	33.7%	10.1%
2020	22.00	22.00	44.00	50.3%	6.8%
2021	23.00	23.00	46.00	43.2%	7.3%
2022	24.00	27.00	51.00	38.9%	7.1%
2023 ^{*4}	27.00	29.00	56.00	35.5%	10.2%
2024 (予定) ^{*5}	29.00	29.00	58.00	47.6%	7.6%



^{*1} 2021年以降の配当性向は、コアEPS (その他の収益/費用とそれらに係る税金影響を控除した当期利益「コア当期利益」を元に算出したEPS) に対する配当性向
^{*2} Return On Equity: 自己資本当期利益率
^{*3} 2019年2月6日に自己株式10,700千株(226億円)を取得、2019年の総還元性向は67.3%
^{*4} 期末配当29円については、2024年3月22日開催予定の第101回定時株主総会に付議予定
^{*5} 400億円の自己株式の取得を実施した場合の、2024年の総還元性向は109.5% (予定)

自己株式の取得及び消却

- ✓ 資本効率の向上と株主還元の拡充のため、自己株式の取得及び消却の実施を決議
- ✓ 過去最大の400億円（17百万株）の取得枠を設定（上限）
- ✓ 2024年の総還元性向は109.5%（予定）



	2021	2022	2023	2024(予定)
配当金 (円/株)	46.0	51.0	56.0	58.0
配当性向	43.2%	38.9%	35.5%	47.6%
総還元性向	43.2%	38.9%	35.5%	109.5%

コマーシャルアップデート

Coordinated Actions to Maximize the Patient Access to global strategic products

2023年振り返り・2024年キーアクション

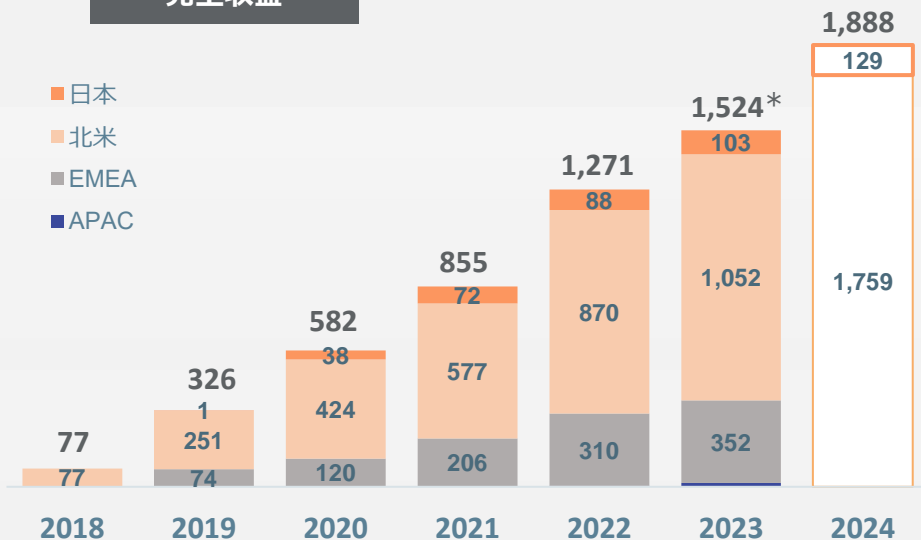
2023年振り返り

- 北米：
自社販売を開始（自販体制基盤を確立、運用開始）。シームレスな販売移管の実現により、着実な成長を継続。
- EMEA：
上市国・地域の拡大、イタリア・スペイン等での成人XLH上市。ドイツ薬価引下げも、患者浸透により成長維持。
- 日本：
専任担当者の拡充によるプロモーション活動の強化。

2024年キーアクション

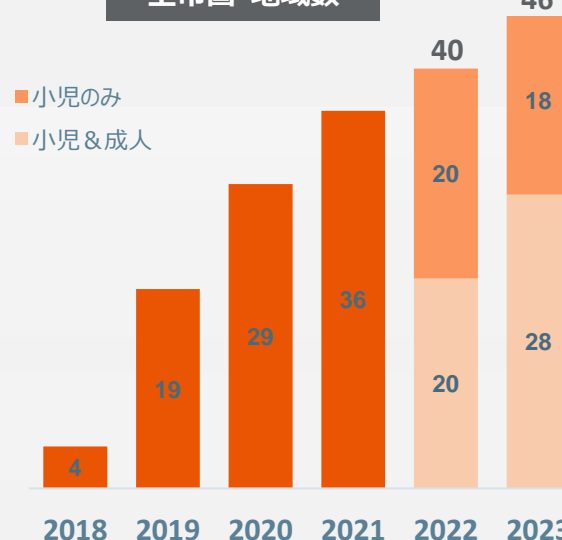
- エビデンスに基づくマーケティング活動の強化。
- 北米：
疾患啓発活動の強化。自販体制基盤の更なる強化。
- EMEA：
引き続き、適応および上市国・地域の拡大に注力。成人XLHにおける市場浸透。
- 日本：
専任担当者を中心とするプロモーション活動の更なる強化、成長加速。

売上収益



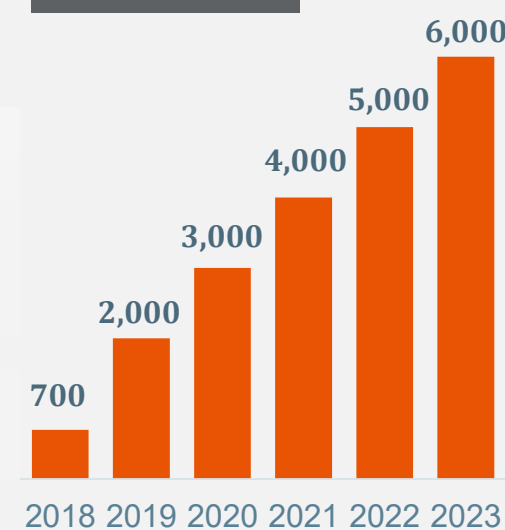
*EAP (Early Access Program) による収益は2022年度まで売上収益に含めず、2023年度以降は金額的に僅少になることから売上収益に含めています。

上市国・地域数



*Ultragenyx社が売上計上するラテンアメリカおよびトルコは含みません。
*治療患者数は当社算定に基づく概数です。

治療患者数



2023年振り返り・2024年キーアクション

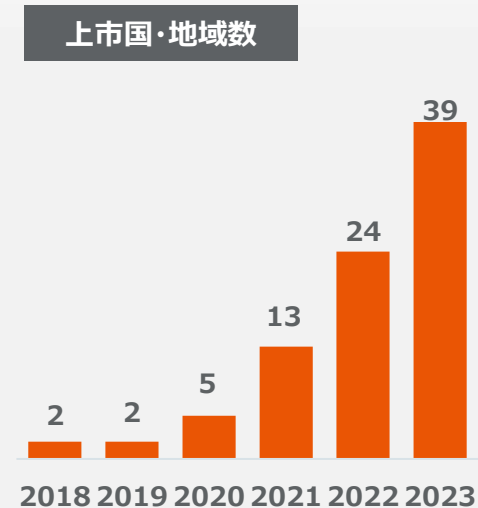
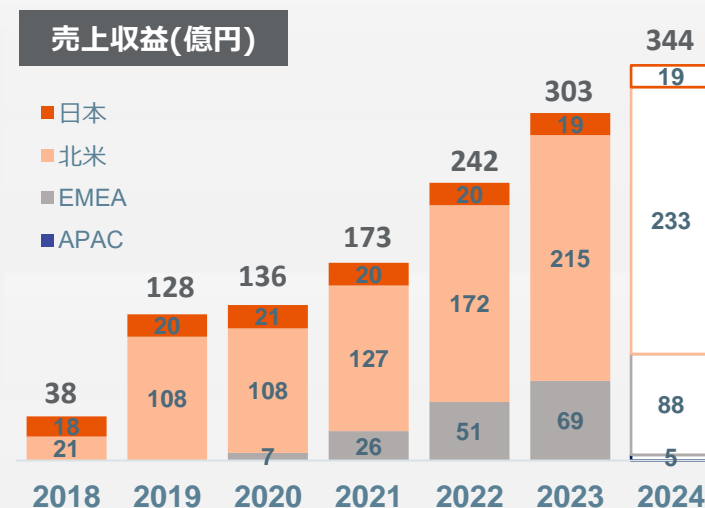
2023年振り返り

- 血液病変に対するデータを始めとするエビデンス活用
- 初期患者さんの血液検査実施啓発
- 北米：医療データに基づくプロモーション活動
- EMEA/アジア：上市国・地域拡大 (+15)。

2024年キーアクション

- エビデンスを活用したプロモーション活動の進化による、既存マーケットへのさらなる浸透とターゲットの拡大。

*EAP (Early Access Program) による収益は2022年度まで売上収益に含めず、2023年度以降は金額的に僅少になることから売上収益に含めています。



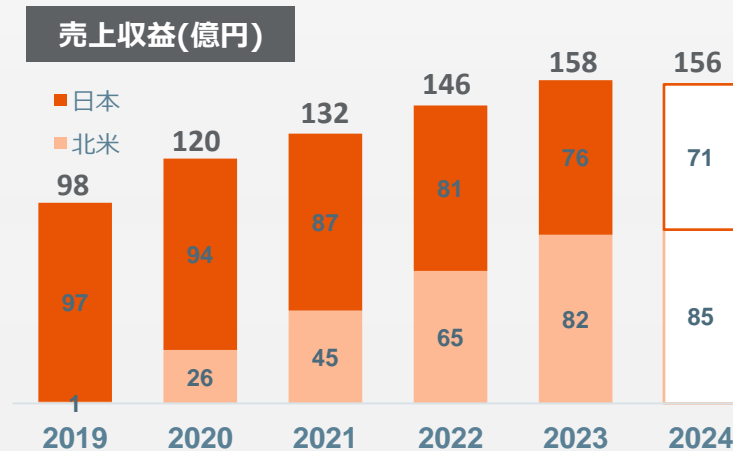
2023年振り返り・2024年キーアクション

2023年振り返り

- 北米：販売促進活動により売上目標を着実に上回り、処方箋総数、処方者数ともに過去最高を記録。

2024年キーアクション

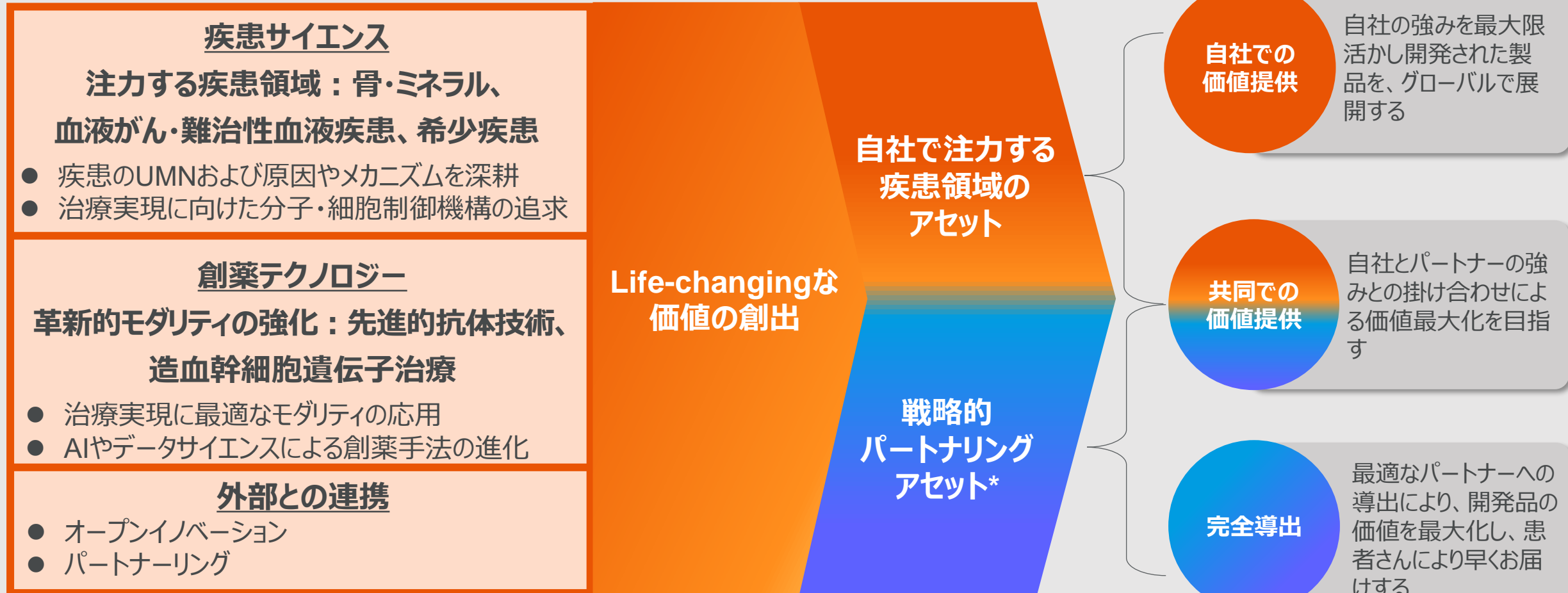
- レボドパ製剤の次に処方される最初の補助薬としてのポジショニングに焦点を当てることで、新規処方患者数増を加速する。
- 営業活動や内容をアップデートしたデジタルチャネルの活用を通じて、本剤の臨床ストーリー全容の理解・浸透を促進する。



R&Dアップデート

Story for Vision 2030

Life-changingな価値を創出・提供するための戦略



* 注力する疾患領域以外のアセットを戦略的パートナーリングアセットとし、パートナーとの連携で価値最大化を実現する

主要開発パイプラインのニュースフロー

2024年2月7日現在

開発コード 一般名	イベント (実施済みは太字表記)	予定時期 (オレンジ: 済)
KHK4083/AMG 451 rocatinlimab	アトピー性皮膚炎 P3 (ROCKETプログラム)	進行中
	喘息 P2	2024年上期
	結節性痒疹 P3	2024年下期
KHK4951 tivozanib	滲出型加齢黄斑変性 P2 開始	2024年2月
	糖尿病黄斑浮腫 P2 開始	2024年1月
KK4277	SLE, CLE P1	進行中
KK2260	進行性又は転移性固形がん P1 開始	2023年11月
KK2269	進行性又は転移性固形がん P1 開始	2024年1月
KK2845	AML P1 開始	2024年Q2
OTL-200	異染性白質ジストロフィー 米国承認可否	2024年3月 ¹
OTL-203	ムコ多糖症I型 (Hurler症候群) ピボタル試験 ² 開始	2024年1月
OTL-201	ムコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群 A型) PoC試験結果 ³ 学会発表	2024年2月

1. PDUFA 2024年3月18日; 2. P3試験相当; 3. P1/2試験相当

主要開発パイプライン (Ph2以降)

	開発中の疾患*1	承認予定年*2	開発ステータス	市場規模*3	患者さんの数*4
KHK4083/ AMG 451 rocatinlimab	中等度から重症の アトピー性皮膚炎	2026/2027	P3 (グローバル)	★★★★★	16M
KHK4083/ AMG 451 rocatinlimab	中等度から重症の喘息*5	TBD	P2 (グローバル) 準備中	★★★★★	13.5M
KHK4951 tivozanib	滲出型加齢黄斑変性	TBD	P2 (日・米) 準備中	★★★★★	2,600K
KHK4951 tivozanib	糖尿病黄斑浮腫*5	TBD	P2 (日・米)	★★★★★	3,400K
OTL-200 Libmeldy®	異染性白質ジストロフィー	2024 (US)	FDA申請中	★	生児出生の 4-16万人に1人
OTL-203	ムコ多糖症I型 (Hurler症候群)	2029/2030	ピボタル試験*5 (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人*6
OTL-201	ムコ多糖症IIIA型 (Sanfilippo症候群A型)	TBD	PoC試験*7	★	10万人に1人

*1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。*2 最初に承認が期待される年です。*3 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に当社が独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 *4 当社独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。*5 P3試験相当。*6 「10万人に1人」はMPS-IH全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの70%になります。*7 P1/2試験相当。

主要開発パイプライン（非臨床～Ph1）

	開発中の疾患* ¹	開発ステータス	モダリティ-使用技術
KK4277	全身性エリテマトーデス 皮膚エリテマトーデス	P1（日本）	抗体、POTELLIGENT [®]
KK2260	進行性又は転移性固形がん	P1（日：進行中、米：準備中）	抗体、REGULGENT [™]
KK2269* ²	進行性又は転移性固形がん	P1（日・米）	抗体、REGULGENT [™]
KK2845* ²	急性骨髄性白血病（AML）	P1（日本）準備中	抗体薬物複合体（ADC）

* 1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。

* 2 2023年12月31日時点では試験開始前であったため、現在の当社のパイプライン表には掲載されておりません

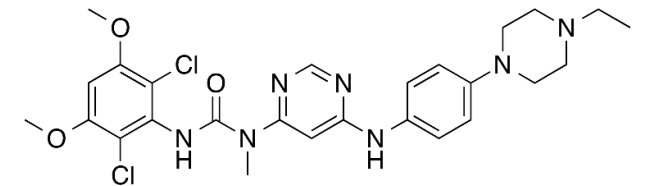
Infigratinib ライセンス契約

骨・ミネラル領域の強化を目的として、米国BridgeBio社と infigratinibの日本国内の開発・販売に関するライセンス契約を締結

- 骨系統疾患を対象とした日本国内における開発および販売に関する独占的権利を獲得
- 契約一時金（\$100M）、各種マイルストーン、最大20%台後半の販売ロイヤルティをBridgeBio社に支払う

Infigratinib

- BridgeBio傘下のQED Therapeutics社が開発中の経口低分子FGFR¹¹⁻³阻害剤
- 開発疾患：軟骨無形成症² (achondroplasia)



- FGFR3遺伝子の機能獲得型変異により長管骨の成長が阻害され、手足の短縮を伴う低身長症を生じる遺伝性疾患
- 指定難病276、推定6000人の患者さんが存在² 経口の治療薬が未承認
- 作用機序：異常FGFR3を阻害することで骨端の軟骨組織形成を促進
- P2試験³にて有効性を確認 現在QED社によりグローバルP3試験⁴が進行中

2024年にPMDA相談を開始し、2025年に承認取得に向けた臨床試験の開始を目指す

1. 線維芽細胞成長因子受容体 (fibroblast growth factor receptor); 2. <https://www.nanbyou.or.jp/entry/4570>; 3. NCT04265651; 4. NCT06164951

2023年のニュース

2023年初来の主なニュース

分類 公表日

ニュース概要

2024年2月7日現在

ESG	2/28	Ubieと希少疾患「FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症」に関する協業を開始（日本）
ESG	3/2	日本腎臓病協会と共同で実施した慢性腎臓病(CKD)疾患認知度調査結果を公表（日本）
ESG	3/8	経済産業省より「健康経営銘柄2023」および「健康経営優良法人(ホワイト500)」に選定（日本）
R&D	3/17	rocatinlimab(KHK4083 / AMG 451)のPhase 2b試験結果を米国皮膚科学会で発表
SCM	3/28	宇部工場に新たな事務所棟を竣工（日本）
ESG	4/6	工場2拠点、研究所3拠点の全ての購入電力にRE100基準の再生可能エネルギーを導入（日本）
SCM	4/7	高崎工場に品質保証関連複合施設(Q-TOWER)を竣工（日本）
R&D	4/27	東京工業大学生命理工学院と協和キリンが創薬技術の研究開発に関する連携を開始（日本）
R&D	5/10	バルドキシロンメチル(RTA 402)の国内第3相試験成績と開発中止について（日本）
LCM	6/23	抗悪性腫瘍剤用途マイトマイシンC製剤の承認事項一部変更承認取得（日本）
ESG	7/3	グローバルヘルス技術振興基金第三期活動への参画（日本）
LCM	7/18	眼科用外用マイトマイシンC製剤の発売、抗悪性腫瘍用途マイトマイシンC製剤の供給再開（日本）
LCM	7/24	持続型G-CSF製剤「ジーラスタ」の承認事項一部変更承認を申請*（日本）

* 自家抹消血幹細胞移植のための造血幹細胞の抹消血中への動員に関する承認事項一部変更承認申請

2023年初来の主なニュース

分類 公表日

ニュース概要

2024年2月7日現在

LCM	8/23	IL-17経路阻害薬ルミセフの掌蹠膿疱症に関する承認事項一部変更承認取得（日本）
LCM	8/30	カルシウム受容体作動薬オルケディア錠4mg製造販売承認取得（日本）
ESG	9/1	「X染色体連鎖性低リン血症性くる病・骨軟化症」の市民公開講座を開催（日本）
LCM	9/25	ロミプレートの再生不良性貧血を適応症とした承認事項一部変更承認取得（日本）
R&D	9/25	透析中の慢性腎臓病患者における高リン血症の改善を適応症とした フォゼベルの製造販売承認取得（日本）
R&D	9/28	妊娠高血圧腎症を適応症としたKW-3357のPhase3試験速報結果を公表（日本）
LCM	9/29	既存治療で効果不十分なループス腎炎を対象としたリツキシマブBSの承認事項一部変更承認取得（日本）
SI	10/5	英国バイオ医薬品企業Orchard Therapeutics plc社株式取得契約締結
R&D	10/11	rocatinlimabのPhase2b試験のサブ解析データをEADV（欧州皮膚科性病科学会議）で発表
R&D	10/17	フォゼベルのPhase3試験データをASN Kidney week（米国腎臓学会）で発表

- 当社と Grünenthal 社は、当社の子会社である Kyowa Kirin International が保有するエスタブリッシュト医薬品13ブランドの合併事業を、2023年8月1日より開始しました。
- Kyowa Kirin International のエスタブリッシュト医薬品 Tostran に関する権利の ADVANZ PHARMA 社への譲渡は、2023年10月13日に完了しました。

ESG: 環境・社会・ガバナンス、LCM: ライフサイクルマネジメント、R&D: 研究開発、SCM: サプライチェーンマネジメント、SI: 戦略投資

2023年初来の主なニュース

分類 公表日

ニュース概要

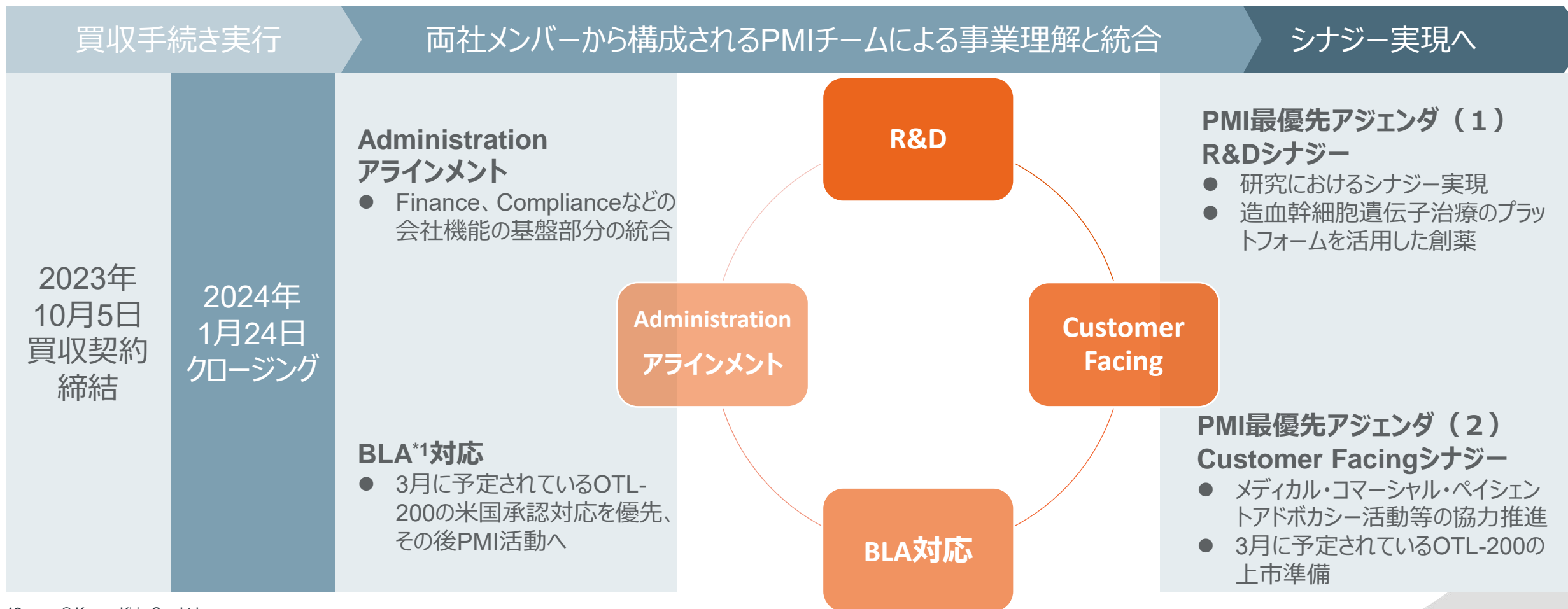
2024年2月7日現在

ESG	11/7	「マルチステークホルダー方針」策定（日本）
ESG	11/8	LGBTQ+に関する取り組み指標「PRIDE指標」の「ゴールド」認定を2年連続で取得（日本）
LCM	11/22	カルシウム受容体作動薬オルケディア®錠4mg発売（日本）
ESG	12/19	FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症に関する自社電話相談窓口「くるコツ電話相談室」利用対象者へのフォローアップアンケート結果を公開（日本）
LCM	1/5	線維化を伴う炎症性疾患治療薬の開発を目的とする化合物の独占的開発権をベーリンガーインゲルハイム社へ導出
SI	1/24	英国バイオ医薬品企業Orchard Therapeutics plc社の株式取得（子会社化）完了
R&D	2/5	MPS I型ハーラー症候群を対象としたOTL-203の臨床試験で最初の被験者の参加発表
R&D	2/6	糖尿病黄斑浮腫を対象としたtivozanib点眼液の第2相国際臨床試験における最初の症例登録完了
SI	2/7	BridgeBio Pharmaと日本における骨系統疾患を対象としたinfigratinibの独占的ライセンス契約を締結
Finance	2/7	自己株式の取得及び自己株式の消却を決議

ESG: 環境・社会・ガバナンス、LCM: ライフサイクルマネジメント、R&D: 研究開発、SCM: サプライチェーンマネジメント、SI: 戦略投資

Orchard Therapeutics社統合計画

- 2024年1月24日に当社によるOrchard Therapeutics社の買収が正式に完了。
- 両社メンバーから構成されるPMI (post-merger integration) チームを立ち上げ、既に、早期のシナジー実現に向けた活動に着手。



Orchard Therapeutics社買収の企業結合会計（暫定値）

- ✓ 2024年1月24日に株式取得を完了し、実質的には2024年2月度より新規連結予定
- ✓ 無形資産\$201M、のれん\$254Mを計上予定
- ✓ 無形資産は20年間にわたり償却予定（OTL-200 (Libmeldy) は上市済のため、19年間で償却予定）

(単位 百万米ドル)

【無形資産（\$201M）の内訳】
<ul style="list-style-type: none"> • OTL-200 \$159M（米国分含む） • OTL-203 \$42M
【年間償却費】
<ul style="list-style-type: none"> • OTL-200 \$8M ⇒ 2024年2月～償却開始予定 • OTL-203 \$2M ⇒ 上市後償却開始予定



諸資産 172	諸負債 108
	繰延税金負債 50
無形資産 201	支払対価 478
のれん 254	
その他の費用 9	

- ✓ 上記はOrchard社の2023年12月31日末の貸借対照表(米国会計基準に基づく速報値)をベースにした仮定に基づく暫定的な試算です。今後、監査法人と協議して金額及び会計処理を確定していきます。

Appendix

Orchard therapeutics社株式取得 ～戦略的意義～

2030年に向けた新ビジョン

協和キリンは、イノベーションへの情熱と
多様な個性が輝くチームの力で、
日本発のグローバル・スペシャリティファーマとして
病気と向き合う人々に笑顔をもたらす

Life-changingな価値*の
継続的な創出を実現します。

*病気と向き合う人々の満たされていない医療ニーズを見出し、その課題を解決するための新たな薬やサービスを想像し、提供することで、患者さんが「生活が劇的に良くなった」と感じ笑顔になること

本買収の意義:

- いまだ治療法が存在しない、高いUMNs**が存在する疾患に対応するパイプラインの強化
- 将来のUMNsに対応可能な、細胞遺伝子治療研究に関するケイパビリティの獲得

** Unmet medical needs

- ・ クリースビータ、ポテリジオに続く、日本発のグローバル・スペシャリティファーマとしての事業の強化
- ・ 当社のバイオ医薬品に対する強みとの組合せによる、将来のUMNsへの対応力の増強
- ・ 医薬品を超えた価値・患者さんに寄り添った治療法の提供への足掛かり

Orchard Therapeutics社株式取得 ～取引概要～

項目	概要
対象会社	<ul style="list-style-type: none"> ■ Orchard Therapeutics plc (ロンドン) — NASDAQ上場
買収価格*	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1ADS当たり16.00米ドル／約387.6百万米ドル (約574億円) — Orchard株主は追加の成功対価受領権 (contingent value rights、「CVR」) をADS当たり1.00ドル保有する契約 — FDAによるOTL-200のUS販売承認が得られた場合、CVR契約に基づき追加で1ADS当たり1.00米ドルを支払い、合計17.00米ドル／合計約477.8百万米ドル (約707億円) となる
資金調達方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 手元現金にて充当
財務影響	<ul style="list-style-type: none"> ■ のれんおよび無形固定資産等、詳細が確定次第公表予定
買収方法とプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ スキーム・オブ・アレンジメント (SoA) — Orchard社株主総会、英国裁判所及び規制当局による承認が必要 — SoA実行により2024年1月24日にクロージング

* Orchard社の全発行済普通株式、ADSの買付け、オプション、Restricted Stock Unit等その他証券に関する支払いを行うために要する金額。

Orchard Therapeutics社株式取得 ～期待されるシナジー効果～

日本発のグローバル・スペシャリティファーマとしてのさらなる発展

- クリースビータ・ポテリジオを通じた既存事業との連携により、高いUMNsを満たすLife-changingな価値を継続して創出するグローバル・スペシャリティファーマを実現する

新薬創出における研究開発力の強化

協和キリン

- バイオ医薬品、抗体医薬品の研究開発における専門性と経験、事業化実績
- 独自の次世代抗体技術
- 新たな創薬モダリティへの取り組み



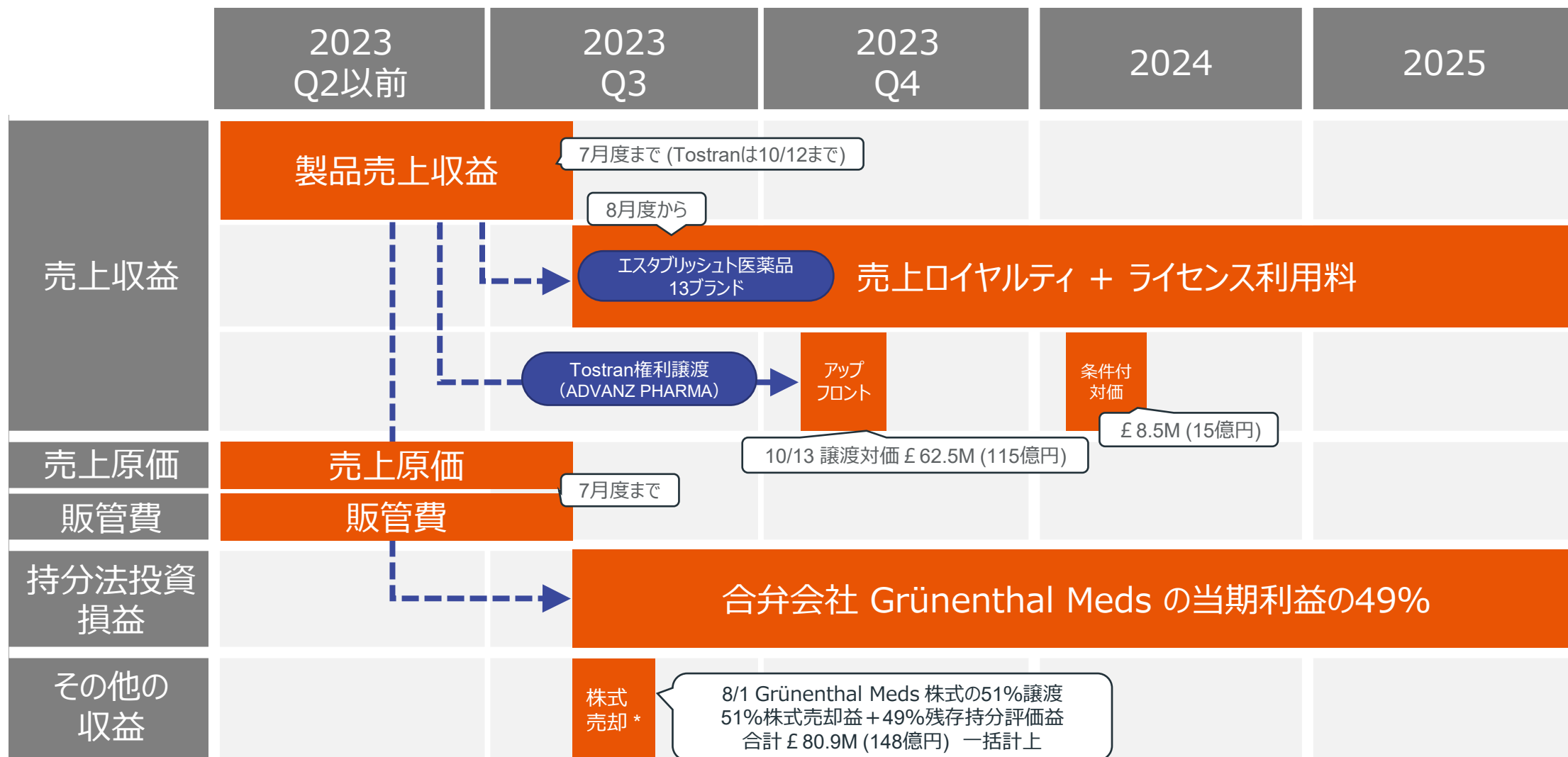
Orchard Therapeutics

- EUにおける細胞遺伝子治療の事業化経験と実績
- HSC-GT*における高い技術力 (研究開発, CMC, SCMなどを含む)
- 患者さんへのアクセス、医療機関との連携
- 新たな創薬モダリティへの取り組み

*造血幹細胞遺伝子治療

- 患者さんへの先進的な価値提供への挑戦
 - “One-time treatment in life”の追求
 - 遺伝性疾患の根本原因への挑戦
 - 個別化医療 / プレシジョンメディスン
 - 既存の医薬品を超える治療法の提供
- より広いUMNsへの対応

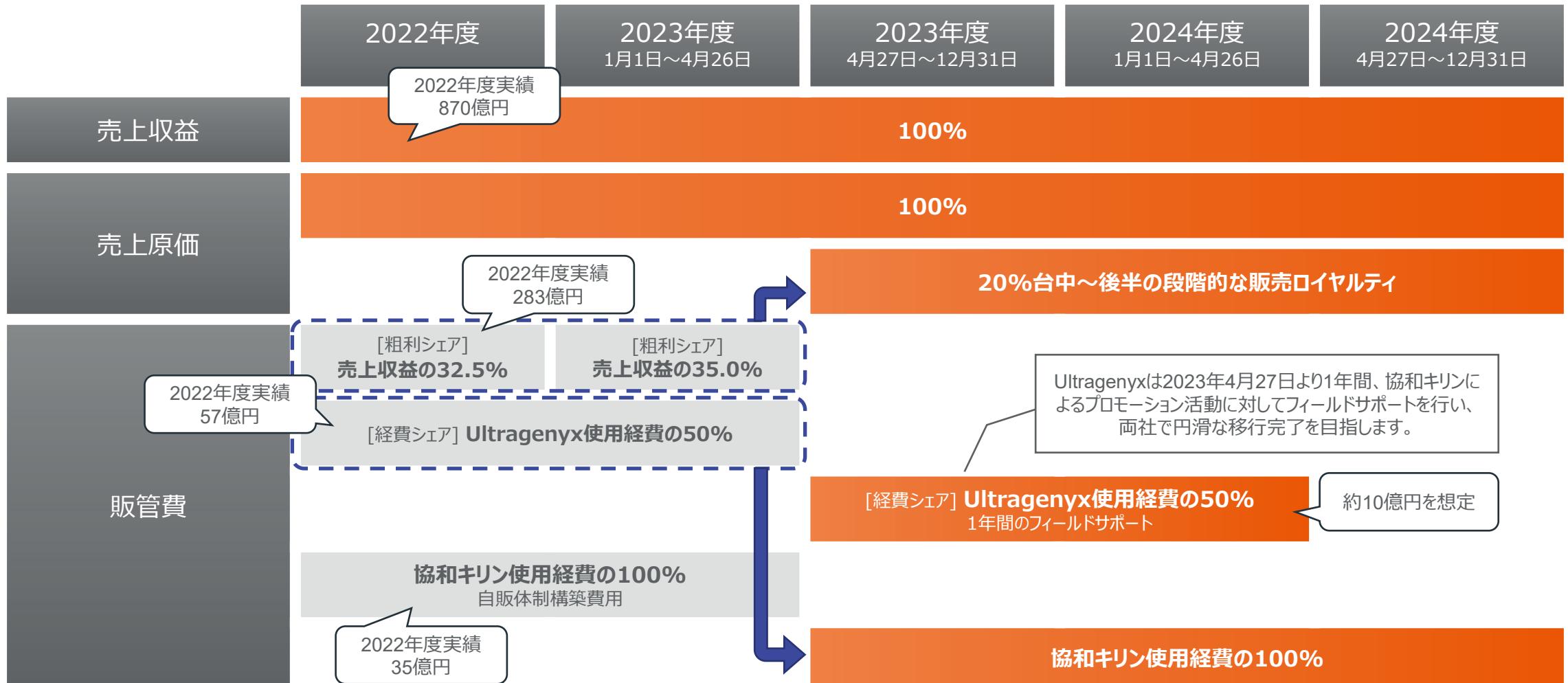
欧州エスタブリッシュト医薬品事業の損益影響



* Kyowa Kirin International plc (以下「KKI」) は、2026年第1四半期に、13ブランドの知的財産を含むエスタブリッシュト医薬品事業に関する残存資産を Grünenthal 社に譲渡するオプションを保有し、Grünenthal 社は KKI から同事業を譲受するオプションを保有します。

Crysvita北米ビジネスの損益影響

2013年に締結した「協業およびライセンス契約」に基づき、北米地域での発売後6年目(2023年4月27日)より、協和キリンがUltragenyx社よりプロモーション活動を引き継ぎます。



Ultragenyxは2023年4月27日より1年間、協和キリンによるプロモーション活動に対してフィールドサポートを行い、両社で円滑な移行完了を目指します。

主要開発パイプライン：今後の予定

T : トップラインデータ D : 詳細データ発表 (学会・論文等)

2024年2月7日現在

開発コード 一般名	標的疾患		2024	2025	2026	+	
KHK4083/ AMG 451 rocatinlimab	中等度から重症の アトピー性皮膚炎	P3					IGNITE
		P3					HORIZON
		P3					SHUTTLE
		P3					ASTRO
		P3					ORBIT
		P3					VOYAGER
		P3					ASCEND
		P3					OUTPOST
KHK4951 tivozanib	滲出型加齢黄斑変性	P2					
	糖尿病黄斑浮腫	P2					
KK4277	全身性エリテマトーデス 皮膚エリテマトーデス	P1					
KK2260	進行性又は転移性固形がん	P1					
KK2269	進行性又は転移性固形がん	P1					

為替関連情報

期中平均為替レート

	2022年実績	2023年実績	前年比	2024年予想
米ドル (USD)	130円	140円	+10円	140円
英ポンド (GBP)	161円	174円	+13円	180円
ユーロ (EUR)	137円	151円	+14円	155円

2023年 為替影響額 (前年対比)

	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD)	+110億円	+35億円
英ポンド (GBP)	+23億円	+7億円
ユーロ (EUR)	+37億円	+17億円

2024年度 為替感応度 (業績予想ベース)

	変動	売上収益	コア営業利益
米ドル (USD)	1円安	+14億円	+4億円
英ポンド (GBP)	1円安	+2億円	-0億円
ユーロ (EUR)	1円安	+3億円	+2億円

Crysvita ～Ultragenyx社とのコラボレーション～

経済条件

アメリカ・カナダ

- 協和キリンが売上計上
 - 発売後5年間は50/50プロフィットシェア
 - 発売後6年目(2023年4月27日)からはUltragenyxに段階的な販売ロイヤルティ支払い(20%台中～後半)
 - 製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%
- ※Ultragenyxは販売ロイヤルティを受け取る権利の30%をOMERS Capital Marketsに譲渡 (上限:譲渡対価の1.45倍)

ヨーロッパ

- 協和キリンが売上計上
 - Ultragenyxに10%以下の販売ロイヤルティ支払い
- ※Ultragenyxは販売ロイヤルティを受け取る権利をRoyalty Pharmaに譲渡 (上限:上限到達時期により譲渡対価の1.9倍または2.5倍)

ラテンアメリカ

- Ultragenyxが売上計上
- 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(1桁%台前半)
- 製品供給価格は2022年度までは売上の35%、以降は30%

トルコ

- Ultragenyxが売上計上
- 協和キリンは販売ロイヤルティ受け取り(20%以下)

アジア・その他

- 協和キリンが売上計上

※すべての地域において製品供給は協和キリンが行う。

KHK4083/AMG 451 ~Amgen社とのコラボレーション~

	アメリカ	欧州、アジア (日本を除く)	日本
開発	<ul style="list-style-type: none"> Amgenが開発主導 開発コストは両社で折半 	<ul style="list-style-type: none"> Amgenが開発主導 開発コストは両社で折半 	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンが治験主導
販売	<ul style="list-style-type: none"> Amgenが販売、売上計上 協和キリンはコプロモーション、費用は両社で折半 	<ul style="list-style-type: none"> Amgenが販売、売上計上 協和キリンはコプロモーションのオプトイン権利を保有 	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンが販売、売上計上
売上ロイヤルティ	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領 	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリンは2桁%台の売上ロイヤルティを受領 	
製品供給	<ul style="list-style-type: none"> Amgen 	<ul style="list-style-type: none"> Amgen 	<ul style="list-style-type: none"> 協和キリン

協和キリンは、契約一時金（400百万ドル、受領済み）のほか、今後、条件に応じたマイルストーン収入（累計で最大850百万ドル）と売上ロイヤルティをAmgen社より受領予定

推定患者数

疾患	国/地域	発生率	有病率*	出典
PTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
CTCL	日本		2,000	厚生労働省 平成29年患者調査、傷病基本分類別
	米国	1,500 / 年		SEER Data (2001-2007)
XLH	日本	1:20,000	成人: 5,000 小児: 1,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; Nationwide survey of fibroblast growth factor 23 (FGF23)-related hypophosphatemic diseases in Japan: prevalence, biochemical data and treatment. (Endo I et al., Endocr J., 2015)
	欧州	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算
	米国	1:20,000	成人: 12,000 小児: 3,000	本疾患の推定発症率に基づく概算; New perspectives on the biology and treatment of X-linked hypophosphatemic rickets. (Carpenter TO, Pediatr Clin North Am., 1997)
TIO	日本		30	2010年 厚生労働省 ホルモン受容機構異常に関する疫学調査研究
	米国		500-1,000	Ultragenyx社調査
AD	日本、北米、欧州		30,000,000	Decision Resources社調査
nAMD	日本、米国		2,300,000	Decision Resources社調査
MLD	グローバル	1:40,000-160,000		https://medlineplus.gov/genetics/condition/metachromatic-leukodystrophy/#frequency
MPS-IH	グローバル	1:100,000		Puckett et al. 2021 Orphanet J Rare Dis 16:241: US NBS data (MPS-I incidence derived from NBS data in Table 3)
MPS-IIIA	グローバル	1:100,000		Trinity Partners research report 2013 based on literature and KOL feedback

* 有病率は国または地域の全人口あたりの推定人数

略語集

AD	Atopic Dermatitis	アトピー性皮膚炎
AG	Authorized Generic	オーソライズド・ジェネリック
APAC	Asia-Pacific	アジア太平洋
AML	Acute Myeloid Leukemia	急性骨髄性白血病
BS	Biosimilar	バイオ後続品
DME	Diabetic Macular Edema	糖尿病黄斑浮腫
EMEA	Europe, the Middle East and Africa	欧州・中東・アフリカ
JP	Japan	日本
LCM	Lifecycle Management	ライフサイクルマネジメント
MDS	Myelodysplastic syndromes	骨髄異形成症候群
MLD	Metachromatic Leukodystrophy	異染性白質ジストロフィー
MPS-IH	Mucopolysaccharidosis type I, Hurler syndrome	ムコ多糖症I型（ハーラー症候群）
MPS-III A	Mucopolysaccharidosis type III A	ムコ多糖症III A型
NA	North America	北米
nAMD	neovascular Age-related Macular Degeneration	滲出型加齢黄斑変性
PD	Parkinson's Disease	パーキンソン病
PE	Preeclampsia	妊娠高血圧腎症
TIO	Tumor Induced Osteomalacia	腫瘍性骨軟化症
XLH	X-linked Hypophosphatemia	X染色体連鎖性低リン血症



～本資料のお問合せ先～

協和キリン株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IRグループ
03-5205-7206 / ir@kyowakirin.com